

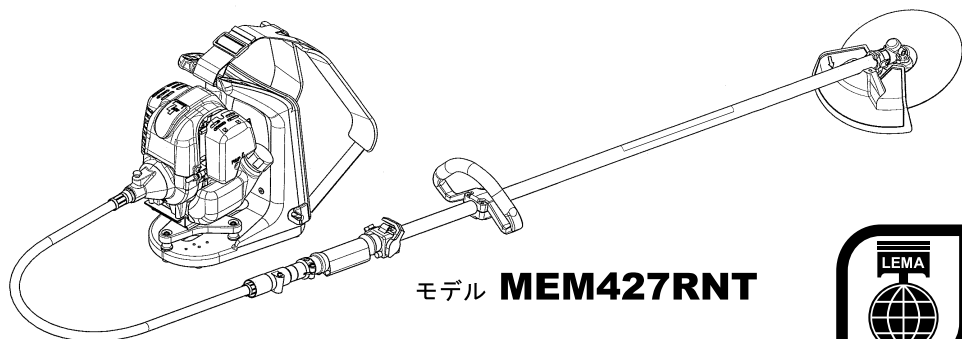


# 背負式エンジン刈払機

## 取扱説明書

モデル

# MEM427RNT



モデル MEM427RNT



### 目次

●国内排出ガス自主規制について……………2	1. エンジンの始動方法
●シンボルマークについて……………3	2. エンジンの停止方法
●安全上のご注意……………4～11	3. 操作方法
●注意ラベル……………12	4. 低速調整の方法
●仕様……………13	●刈払作業……………28
●各部の名称……………14	●点検と整備……………29～34
●使用準備……………16～21	1. エンジンオイルの交換
1. フレキシブルライナとメインパイプの取り付け方	2. エアクリーナの清掃
2. フレキシブルライナとエンジン部の取り付け方	3. 点火プラグ（スパークプラグ）の点検
3. スロットルワイヤの取り付け方	4. ギヤケースへのグリースの補給
4. ハンドルの取り付け方	5. フレキシブルシャフトの保守
5. 飛散防護カバーの取り付け方	6. 燃料フィルタの清掃
6. 刈刃の取り付け・取りはずし方	7. 各所ボルト、ナット、ビスの点検
7. 吊りバンドの取り付け方と肩掛けバンドの操作方法	8. 燃料パイプの交換
●運転を始める前に……………22～24	9. 各部の清掃
1. エンジンオイルの点検・補給	●格納方法……………35
2. 燃料の補給	●故障かな？と思ったら……………36～37
●運転のコツと停止のしかた……………25～27	●保証書……………39

このたびはマキタエンジン刈払機をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

- お買い上げの製品を安全に能率よくお使いいただくために、ご使用前に取扱説明書をよくお読みください。
- 取扱説明書を紛失や損傷したときは、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所に手配をお申し付けください。

※ この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

## 国内排出ガス自主規制について



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。













本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。




自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。

<http://www.lemma.or.jp/>


# シンボルマークについて


製品および取扱説明書にシンボルマークを掲載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。


	取扱説明書をよくお読みいただき内容を十分ご理解のうえご使用ください。		作業中は半径15m以内に他の人や動物を近づけないでください。
	換気の悪い場所では使用しないでください。		飛散物に注意してください。
	刃物軸の最高回転数よりも高い許容回転数の刈刃を使用してください。		跳ね返り(キックバック)に注意してください。
	自動車用ガソリンを入れてください。		燃料の給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。
	エンジンを停止してください。		燃料の給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。
	保護具を着用してください。		万一の場合にそなえて救急箱を備えてください。


注意文の  警告  注意  注 の意味について

ご使用上の注意事項は  警告 と  注意 と  注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

 警告 : 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 注意 : 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 注 : 製品および付属品の取り扱い等に関する重要な注意。

# 安全上のご注意

## 全般

### 警告

1. ご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、内容を十分ご理解のうえ、ご使用ください。

- 機械の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。



2. 本機は雑草の刈払いを目的とした機械です。この目的以外には、使用しないでください。

- 目的以外で使用されますと、けがや事故の原因になります。また本機の寿命を縮めます。

3. 枝打ち等の作業はしないでください。

- けがや事故の原因になりますので腰より高い位置での作業はしないでください。



4. 袖や裾の締めりのよい服装をしてください。また手ぬぐいやタオルを首から下げ作業しないでください。

- 回転部に巻き込まれけがの原因になります。

5. 保護帽（ヘルメット）、耳栓、保護メガネ（ゴーグル）、防振性のよい手袋、滑り止めのついた安全靴、すね当てなどの保護具を着用してください。

- 保護帽（ヘルメット）  
転倒や頭上の木の枝、落下物などから頭を保護するため、保護帽を着用してください。
- 耳栓  
騒音から聴力を保護するため、耳栓などの聴力保護具を着用してください。
- 保護メガネ（ゴーグル）  
刈刃部から飛んでくる物から目を保護するため、保護メガネを着用してください。
- 防振性のよい手袋  
手の保護のため、防振性のよい手袋を着用してください。
- 安全靴  
刈刃部から飛んでくる物から足を保護するため、底に滑り止めのついた安全靴（先しん入り）を着用してください。
- すね当て  
刈刃部から飛んでくる物から足を保護するため、すね当てを着用してください。



## 警告

6. 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。  
また、子供には本機を貸さないください。
  - 機械の取り扱いが知識不十分な場合、事故の原因になります。
7. 誤った部品を取り付けたり改造をしないでください。
  - 思わぬ事故の原因になります。
  - 刈刃は当社指定のものをご使用ください。

## 作業を始める前に

## 警告

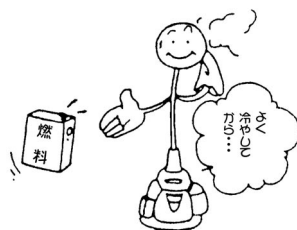
1. 次のときは本機を使用しないでください。事故の原因になります。
  - 疲れているとき、身体が不調なとき。
  - 酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
  - 夜間の使用や悪天候などで視界が悪いとき。
  - 妊婦による作業。
3. 引火、火災の恐れがあります。
  - 燃料の給油をするときは火気のない所で行ってください。
  - 燃料の給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどはタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。



2. 燃料の取り扱いには十分注意してください。
  - 燃料が肌についたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。



- 燃料を給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。



- 燃料の入っている燃料タンクのふたを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。

## 警告

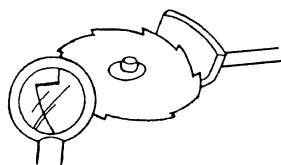
- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
  - 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3m以上離れてください。
  - ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のある物の近くでは、使用しないでください。
  - 燃料の漏れがないか確認してください。
4. エンジンの排気ガスは有毒です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。
- 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。



5. 雨上がりなど足元が滑りやすい場所、および急傾斜地では使用しないでください。またハシゴに乗っての作業や、木に登っての作業など不安定な場所では使用しないでください。
- 転倒してけがの原因になります。



6. 身体を冷やさないような服装で作業してください。
7. 刈刃にひび割れ、欠け、変形、摩耗などの異常がないことを確認し、異常のあるものは使用しないでください。なお、刈刃点検時には手袋を着用してください。
- 異常があると刈刃が破損し、けがの原因になります。



8. 刈刃は刃物軸最高回転数よりも高い許容回転数のものを使用してください。
- 刈刃の許容回転数が低いと刈刃が破損し、事故の原因になります。





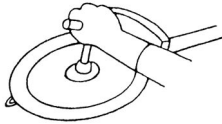
## 注 意

1. 使用前にネジのゆるみや欠落した部品などがないか確認してください。

- 不完全な機械を使用するとけがの原因になります。

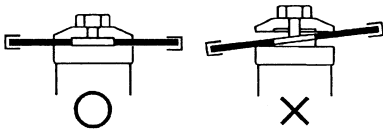
2. 刃物類や付属品は、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。また刃物の取り付けの際は、必ず手袋をしてください。

- 確実でないとはずれたりし、けがの原因になります。



3. 刈刃を取り付ける場合は、刃受金具の凸部と刈刃の取り付け穴を確実にはめてください。

- 刈刃が正しく取り付けいていないと異常振動し、けがの原因になります。



4. 調節キーやレンチなどは必ず取りはずしてください。

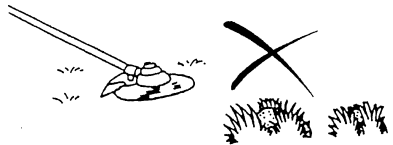
- 付けたままでは使用時に飛び出して、けがの原因になる恐れがあります。

5. エンジンを始動させる前に、半径15m以内に他の人や動物がいないこと、刈刃が地面や樹木その他の障害物に触れていないことを確認してください。

- 刈刃が障害物に触れていると事故の原因になります。

6. 刈払いする場所にある小石、針金、空カン、空ビンなどの障害物は取り除いてから使用してください。

- 使用中に刈刃が障害物に当たると、障害物の飛散、本機の跳ね返り、刈刃の破損などにより事故の原因になります。



# 作業時

## 警告

1. 刈払機は両手で確実に保持し、体重が両足にかかるように適当に足を開いて使用してください。その際、ハンドル部は常に乾いた状態にし、手が滑らないようにしてください。また付属の緊急離脱装置付肩掛けバンドを必ず着用してください。

- 確実に保持していないと、けがの原因になります。

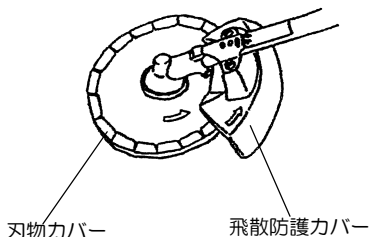


2. 始動時および運転中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。

- 感電する恐れがあります。

3. 飛散防護カバーは必ず指定の位置に取り付けて使用してください。

- 飛散防護カバーを取り付けなかったり、指定の位置に取り付けずに使用すると小石などが飛散した場合、けがの原因になります。



4. 回転している刈刃に手や顔、衣服などを不用意に近づけないでください。

- けがの原因になります。



5. 使用中に刈刃が石などの障害物に当たったときは、すぐにエンジンを停止させ異常がないか調べてください。

- そのまま使用していると事故の原因になります。

6. 刈刃に雑草などがからみついたときは、必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が停止したことを確認してから取り除いてください。

- 刈刃やエンジンが回ったままではけがの原因になります。

7. 使用中、本機の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止してください。

- そのまま使用していると事故の原因になります。

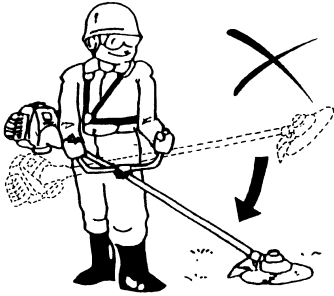




## 警告

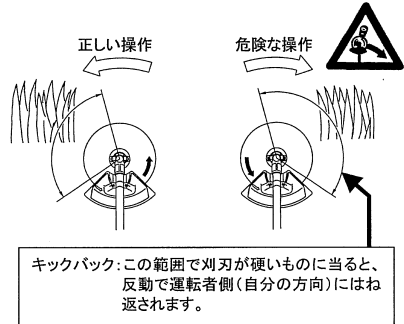
8. 刈刃で打つ、たたく等の方法で刈払作業をしないでください。

- 跳ね返りや刈刃が破損し事故の原因になります。



9. 使用中、キックバックが起こる可能性があります。キックバック防止のため、刈刃を右から左に操作して刈払い作業をおこなってください。

- キックバックが起こると、本機が思わぬ方向に動き、けがや事故の原因になります。

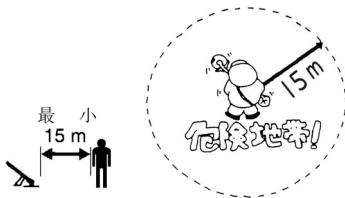


## 注意

1. 使用中は半径15m以内に他の人や動物などを近づけないでください。また2人以上で作業を行うときは、お互いに15m以上の間隔を取り、監督者をおいでください。

使用中、15m以内に他の人や動物などが近づいた場合は、直ちにエンジンを停止し作業を中止して注意をうながしてください。

- 不用意に他の人や動物などを近づけると事故の原因になります。



2. 刈払機を使用している人に近づくときは、使用者から15m以上離れた位置で合図し、エンジンの停止と刈刃の回転の停止を確認してから近づいてください。

- 不用意に近づくと使用者が気が付かず事故の原因になります。



## ⚠ 注 意

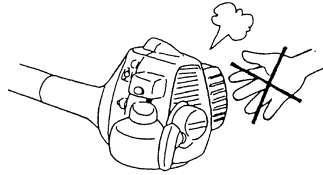
3. 刈刃が石や縁石、フェンスなどに当たる恐れのある場所では使用しないでください。
  - 使用中に刈刃が石や縁石、フェンスなどに当たると、跳ね返りまたは刈刃が破損し、事故の原因になります。
4. エンジンの始動は安定のよい場所で行ってください。  
事故の原因になります。
5. 作業に合った刈刃の回転数で使用してください。
  - 回転が低すぎますと雑草がからみつくことがあります。
  - 回転数が高すぎますと燃費が悪だけでなく、本機の寿命を縮める原因にもなります。
6. 長時間の作業は、身体に負担がかかります。連続使用時間は30分以内とし、一連続作業の後5分以上の休止時間を設けてください。  
また、一日の作業時間は2時間以内としてください。
  - 疲労すると注意力が欠け、けがや事故の原因になります。

(参考) 国有林では、作業者の健康管理のため、次のような基準が設けられています。

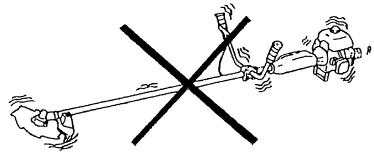
1回の連続作業時間	30分	以内
1日の作業時間	2時間	以内
1週の作業日数	5日	以内
1月の作業時間	40時間	以内

7. 使用中およびエンジン停止直後、マフラ、シリンダフィンなどの高温部に身体が触れないように注意してください。
  - やけどの原因になります。

### ⚠ 高温注意



8. エンジンをかけたまま放置しないでください。事故の原因になります。



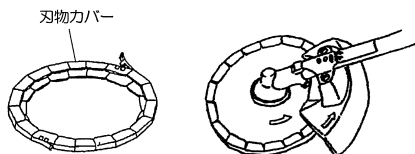
9. 本機から離れる時、または休憩時にはエンジンを停止し刈刃の回転が停止したことを確認してから刈刃に刃物カバーを取り付けてください。
  - けがの原因になります。
10. エンジンオイル給油後はエンジンが正立状態になる様に運搬して下さい。

## その他

### 注 意

1. 運搬時や格納時、休憩時は刃物カバーを必ず取り付けてください。

- けがの原因になります。



2. 車で移動する場合や本機を運搬する場合には、燃料を燃料タンクから抜き、燃料タンクが完全に空になっていることを確認してください。

- 火災、事故の原因になります。

3. 万一の事故に備えて、必ず救急箱を作業場の近くに備え付けてください。救急箱から持ち出した場合には、直ちに交換品を入れておいてください。



4. 注意ラベルがはがれてしまった場合は、新しい注意ラベルを貼ってください。

注意ラベルは、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にご手配をお申し付けください。

5. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

- 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因になります。

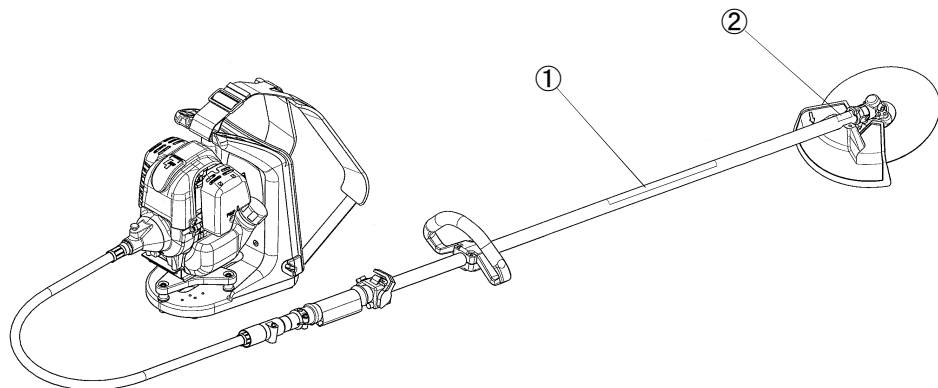
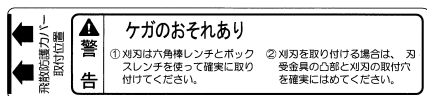
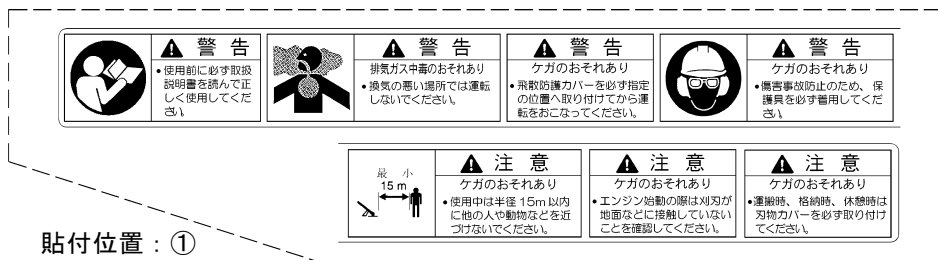
# 注意ラベル

安全に使用していただくために、本機には注意ラベルが貼ってあります。注意ラベルを全て読んでからご使用ください。

注意ラベルははっきりと見えるように、常にきれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、ラベルが貼られている部分を交換する場合は、ラベルも新しいものと交換し、貼り付けてください。

ラベルの手配はお買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。



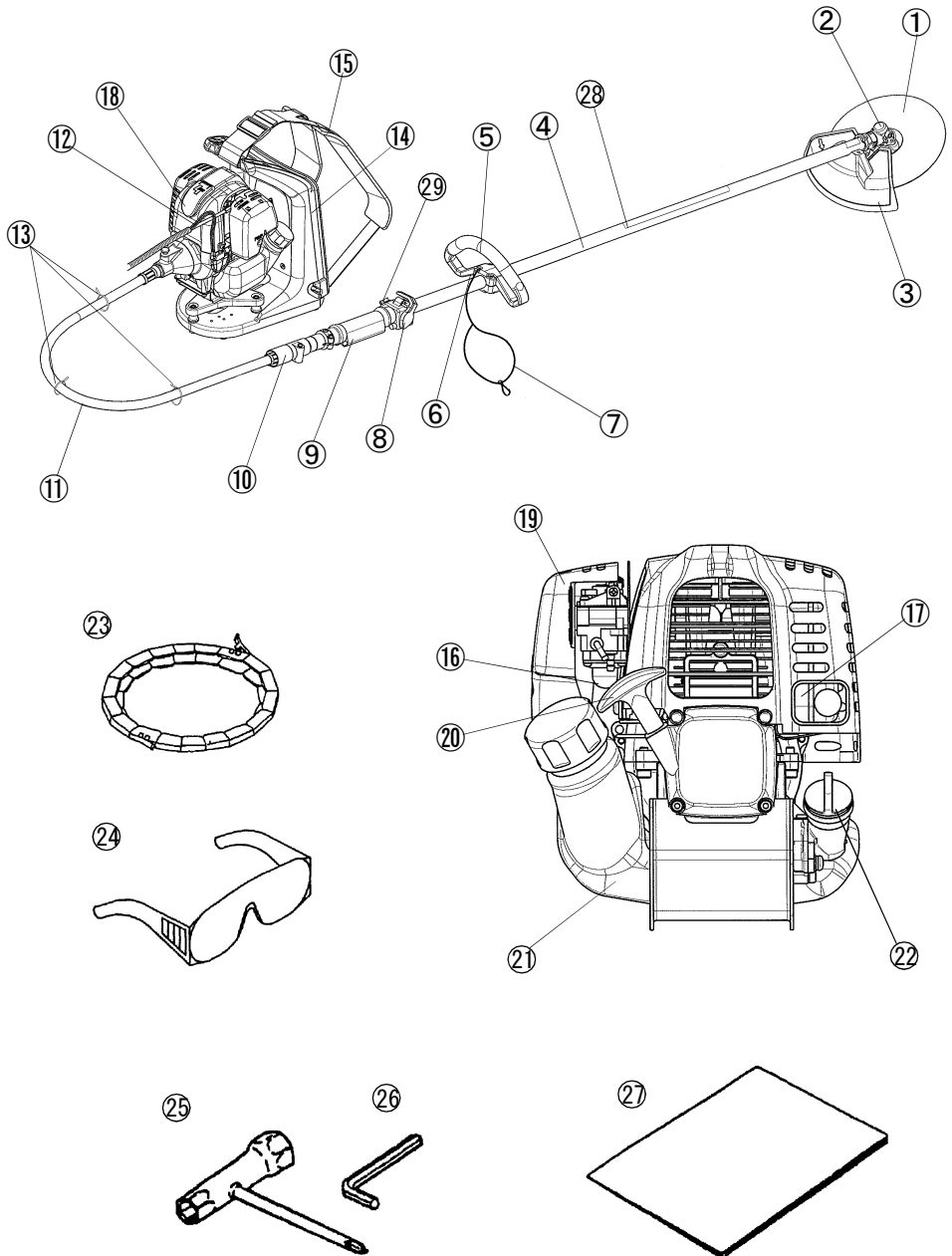
モデル **MEM427RNT**

# 仕 様

機 種	動力刈取機(刈払型)	
型 式 名	MEM427RNT	
質 量 (kg)	7.2	
寸 法 (全長×全幅×全高) (mm)	310×250×360(裨部を除く)	
刃 物 軸 最 高 回 転 数 ( $\text{min}^{-1}$ )	7,400	
エ ン ジ ン	型 式	空冷4ストローク直立単気筒OHVガソリンエンジン
	排 気 量 (mL)	24.5
	使 用 燃 料	自動車用ガソリン
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	0.6
	使 用 潤 滑 油 ( エ ン ジ ン オ イ ル )	API 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル (自動車用4ストロークエンジンオイル)
	潤 滑 油 量 L	0.08
	気 化 器 (キャブレター)	ダイヤフラム式
	点 火 方 式	無接点マグネ式
	点火プラグ(スパークプラグ)	NGK CMR4A
	始 動 方 式	リコイル式(メカニカルデンプ+楽らくスタート)
	潤 滑 方 式	強制潤滑方式
伝 達 部 力	ク ラ ッ チ 方 式	自動遠心方式
	駆 動 方 式	フレキシブルシャフト、ロングシャフト方式
操 作 部	ギ ヤ 変 速 比	14/19減速
	携 行 バ ン ド	緊急離脱装置付肩掛けバンド
	操 作 ハ ン ド ル	ループハンドル
振 動 3 軸 合 成 値 ( $\text{m/s}^2$ )	2.2	
標 準 付 属 品	チップソー(230mm)、飛散防護カバー、刃物カバー、 潤滑油給油用容器、肩掛けバンド、ボックスレンチ、 六角棒レンチ、取扱説明書、保護メガネ、 ワイヤクリップ(3個)、吊バンド、吊バンド掛け金具	

1. 刈刃、エンジンオイル、スパークプラグはマキタ指定のものをご使用ください。
2. 改良のため主要機能および形状などは変更する場合がありますのでご了承ください。
3. 質量はISO11806規格に基づき測定。
4. 振動3軸合成値は、ISO22867規格に基づき測定。
5. 振動3軸合成値についての詳細はJEMA〔(社)日本電機工業会〕ウェブサイト:  
(<http://www.jema-net.or.jp/japanese/pis/powertool.html>)をご参照ください。

# 各部の名称



- ① 刈 刃： 刈払い作業時の刃物です。取付け方法は19,20ページを参照してください。
- ② ギ ヤ ケ ー ス： 2つの歯車からなり回転軸の角度と回転速度を変えます。
- ③ 飛 散 防 護 カ バ ー： 刈刃との不用意な接触と、刈刃部からの飛散物から作業者を守ります。取付け方法は、18ページを参照してください。
- ④ メインパイプ(操作桿)： フレキシブルライナとギヤケースを継ぐパイプです。
- ⑤ ハ ン ド ル： 刈払い作業時に握るハンドルです。
- ⑥ 吊 バ ン ド 掛 金 具： 吊バンドを付ける金具です。取付け方法は18ページを参照してください。
- ⑦ 吊 バ ン ド： メインパイプ(操作桿)を吊るバンドです。取付け方法は20ページを参照してください。
- ⑧ ス ロ ッ ト ル レ バ ー： エンジン回転数を調整するレバーです。
- ⑨ グ リ ッ プ： 刈払い作業時に握るグリップです。
- ⑩ コ ネ ク タ ケ ー ス： メインパイプ(操作桿)とフレキシブルライナを結合する部分です。
- ⑪ フレキシブルライナ： エンジンの動力を操作桿に伝達するものです。(ある程度の範囲で曲ります)
- ⑫ ス ロ ッ ト ル ワ イ ヤ： エンジン回転数を調整するためのもので、スロットルレバーと連動しています。
- ⑬ ワ イ ヤ ク リ ッ プ： スロットルワイヤとフレキシブルライナを固定するものです。
- ⑭ 背 当 て： エンジン部の振動を背中に伝わりにくくするクッションです。
- ⑮ 肩 掛 け バ ン ド： エンジン部を背負うためのバンドで長さの調節ができます。緊急離脱装置付です。操作方法は20ページを参照してください。
- ⑯ プ ラ イ マ ポ ン プ： エンジンを始動するときこのポンプを数回押し、キャブレタに燃料を送り込みます。
- ⑰ マ フ ラ： エンジンの排気音を小さくし、排気ガスを排出します。
- ⑱ 点火プラグ(スパークプラグ)： エンジンに点火するプラグです。
- ⑲ エアクリーナカバー： エアクリーナを保護するカバーです。
- ⑳ ス タ ー タ ハ ン ド ル： このハンドルを引いてエンジンを始動します。
- ㉑ 燃 料 タ ン ク： 燃料を入れる容器です。
- ㉒ オ イ ル ゲ ー ジ： エンジンオイルの量を点検する時に使用します。(普段は栓として使用しています。)
- ㉓ 刃 物 カ バ ー： 本機の持ち運びをするときなどに使用する刈刃のカバーです。
- ㉔ 保 護 メ ガ ネ： 刈刃部から飛んてくるものから目を保護するためのものです。
- ㉕ ボ ッ ク ス レ ン チ： 刈刃の取付けやスパークプラグの点検・整備を行う時に使用します。
- ㉖ 六 角 棒 レ ン チ： 刈刃の取付けや点検・整備を行う時に使用します。
- ㉗ 取 扱 説 明 書： 製品の取扱い内容が記載されています。ご使用前には必ずお読み下さい。
- ㉘ ネ ー ム プ レ ー ト： 型式名、製造ナンバーが記載されています。
- ㉙ ス ト ッ プ ス イ ッ チ エンジンを停止するときに操作します。

# 使用準備

本機はエンジン部とメインパイプ（操作桿）および、フレキシブルライナ、ハンドル、飛散防止カバー、刈刃が分けてありますので、次の手順で付属の工具を使用し取り付けてください。

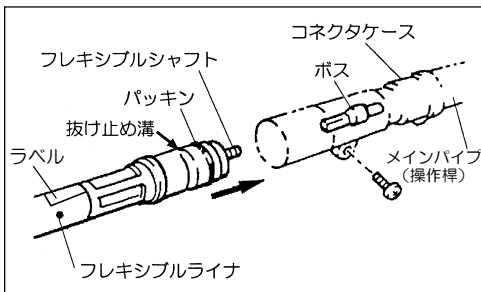


## 注意

- エンジンの始動は本機が完全に組み上がってから行ってください。
  - 組み立て前、組み立て中の運転は事故の原因となります。

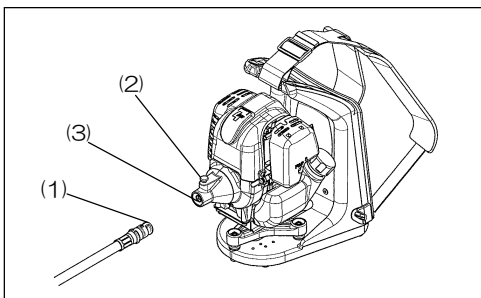
### 1. フレキシブルライナとメインパイプの取り付け方

- フレキシブルライナのラベルがついた側をコネクタケースを差し込んでください。このとき、フレキシブルシャフトの四角部とコネクタケース内のボスの四角穴を一致させてください。
- フレキシブルライナの抜け止め溝とコネクタケースのネジ穴を合わせ、ネジを締め付けてください。



### 2. フレキシブルライナとエンジン部の取り付け方

- ① フレキシブルライナの端金具の孔(1)を真上に向けて下さい。
- ② クラッチケースのノブ(2)を引き上げてフレキシブルシャフトの四角部とエンジンのクラッチドラムの四角穴部(3)を合わせてフレキシブルライナを差し込んで下さい。
- ③ ノブ(2)が完全に落ち込んでいる事を確認し、フレキシブルライナを手で引いてみて抜けない事を確認して下さい。

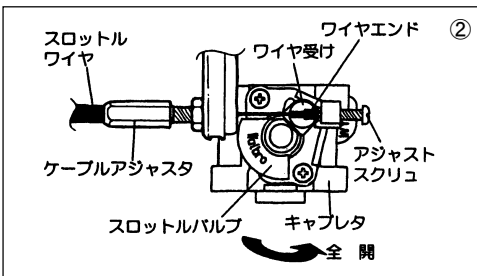


- フレキシブルライナを抜くときは、ノブ(2)を引き上げながら引き抜いてください。



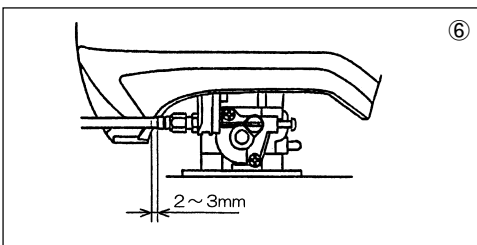
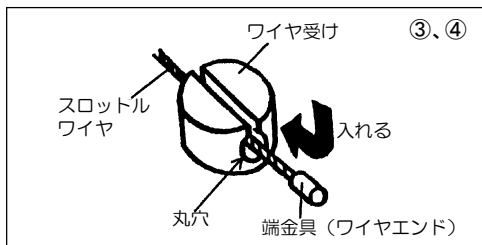
### 3. スロットルワイヤの取り付け方

- ① エアクリーナカバーの取り付けボルトをはずして、エアクリーナカバーをはずしてください（エアクリーナカバーの着脱方法は31ページ“エアクリーナの清掃”を参照してください）。
- ② キャブレタのスロットルバルブを指で全開側に押さえます。
- ③ ワイヤ受けの向きを図のようにして上からワイヤをワイヤ受けの溝に挿入し、スロットルバルブを押さえていた指を離します。
- ④ ワイヤエンドがワイヤ受け内に完全にいった事を確認してください。
- ⑤ エアクリーナカバーを組み付け、取り付けボルトを締めてください（エレメントの紛失に注意してください）。

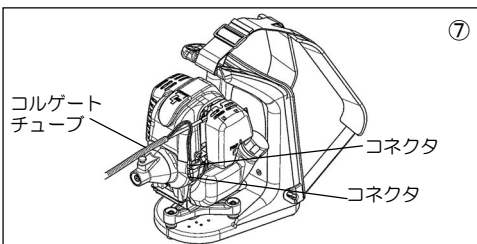


### 注意

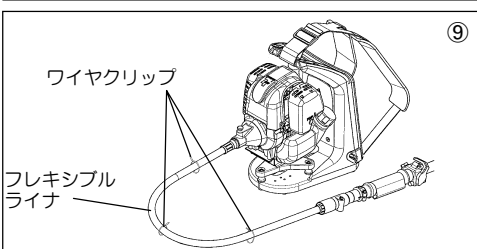
- ⑥ 気化器のケーブルアジャスタでスロットルレバーが高速位置の時に気化器のスロットルが全開になり、スロットルレバーをアイドリング位置に戻した時ワイヤに2～3mmの遊びができるように調整してください（アイドリング回転で、刈刃が回らないこと）。



- ⑦ コネクタ同士を接続してください。
- ⑧ クランプにてコネクタを固定してください。



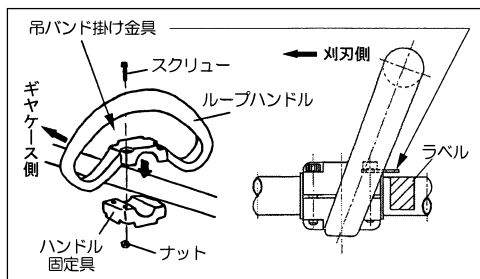
- ⑨ 同梱のワイヤクリップにてフレキシブルライナにコルゲートチューブを固定します（3ヶ所）。



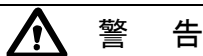
#### 4. ハンドルの取り付け方

図のようにループハンドルと固定具をスクリューとナットで固定してください。  
ハンドル位置は取付ラベルに合わせて組付けてください。

吊りバンド掛け金具は図の位置に組み付けてください。



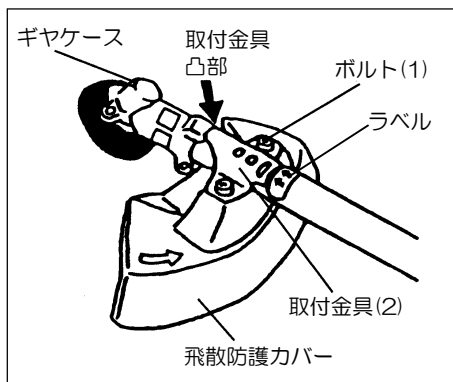
#### 5. 飛散防護カバーの取り付け方



● 飛散防護カバーは必ず指定の位置に取り付けて使用してください。

- 飛散防護カバーを取り付けなかったり、指定の位置に取り付けずに使用しますと小石などが飛散した場合、けがの原因になります。

- ① 取付金具の凸部を図の様にギヤケースに差し込んで位置をラベルに合わせてください。
- ② 取付金具に飛散防護カバーを2本のボルトで取り付け、六角棒レンチでしっかり締め付けてください。

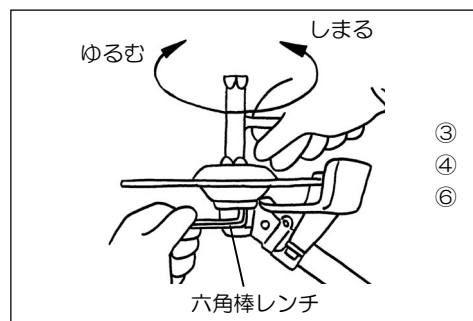
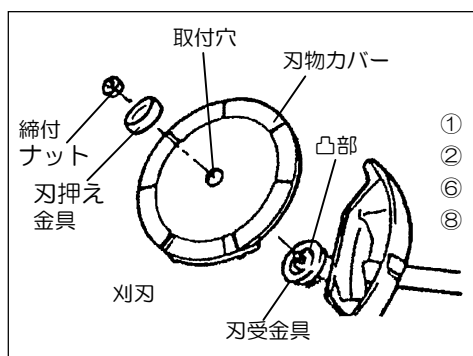


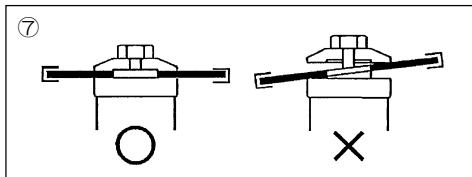
## 6. 刈刃の取り付け、取りはずし方

### ⚠ 注 意

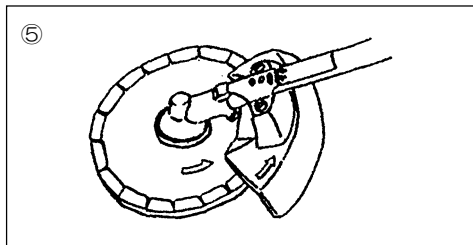
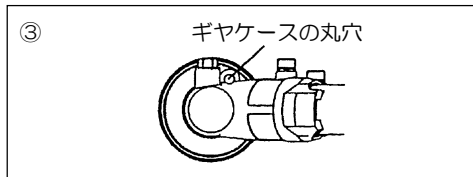
- 刈刃を取り付ける場合は、刃受金具の凸部と刈刃の取付穴を確実にはめてください。
  - 刈刃が正しく取り付けしていないと異常振動し事故の原因になります。
- 刈刃の取り付け、取りはずしの際は、必ず手袋をしてください。
  - けがの原因になります。
- 刈刃の取り付け、取りはずしは、必ず付属のボックスレンチを使用してください。
  - 付属工具以外で締め付けた場合、締め過ぎや締め付け不足となり、事故の原因になります。
- 刈刃にひび割れ、欠け、変形、摩耗などの異常がないことを確認し、異常のあるものは使用しないでください。  
なお、刈刃点検時には手袋を着用してください。
  - 異常があると刈刃が破損し、けがの原因になります。
- 作業時、刈刃に異常が発生した場合はエンジンを停止させ刈刃の回転が止まったことを確認してから点検交換を行ってください
- 刈刃の締付ナット(バネ座金付き)、刃押え金具は消耗品です。摩耗や変形がありましたら交換してください。

- ① 刈刃に刃物カバーを取り付けます。
- ② ギヤケース部を裏返しにしてください。
- ③ ギヤケースの丸穴に六角棒レンチを差し込み、刃受金具が回らないように固定してください。
- ④ 刃押え金具凹部の締付ナット(左ネジ)を右へ回して締付ナットと刃押え金具をはずしてください。
- ⑤ 飛散防護カバーの矢印と刈刃の回転方向を合わせてください。
- ⑥ 刃受金具の凸部と刈刃の取付穴を合わせて、刈刃→刃押え金具→締付ナットの順に取り付け、付属のボックスレンチで締付ナットを左に回してしっかり締め付けてください。
- ⑦ 六角棒レンチをはずし、刈刃を手で軽く回してください。刈刃の取付穴が刃受金具の凸部からずれていないことを確認してください。ずれている場合は、もう一度刈刃を取付け直してください。



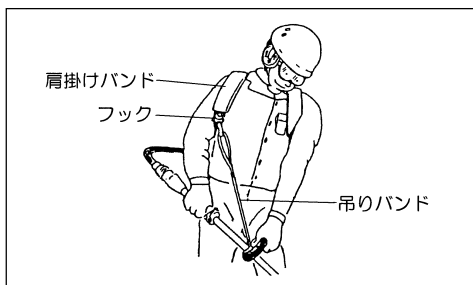


- ⑧ 刈払作業を行うときは刃物カバーを取りはずしてください。
- ・刈刃を取りはずすときは、取り付け方と同じ要領で行ってください。

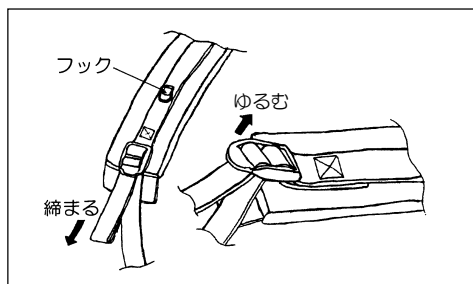


## 7. 吊りバンドの取り付け方と肩掛けバンドの操作方法

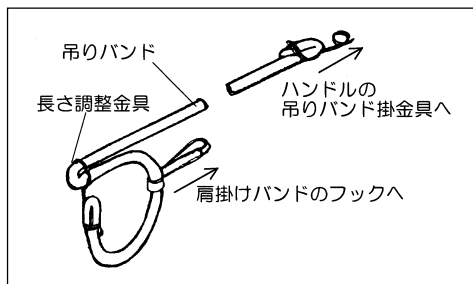
- ① 吊りバンドをハンドルの吊りバンド掛金具に取付けてください。
- ② エンジン部を背負い背当てが背中にくるよう肩掛けバンドを調節してください。



- ・肩掛けバンドの調節は、エンジン部を背負った状態でできます。

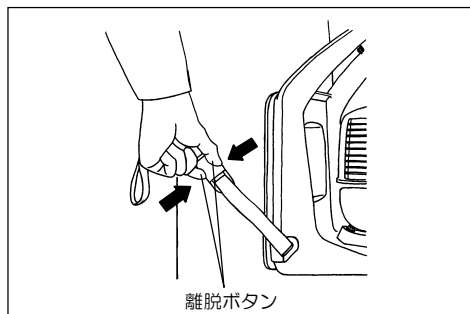


- ・吊りバンドの長さを調整して肩掛けバンドの右側のフックに引っ掛けてください。



## 本機の離脱

- 緊急の場合、左側の肩掛けバンドに付属の緊急離脱ボタンを両側から押すと、機械は身体から離脱します。



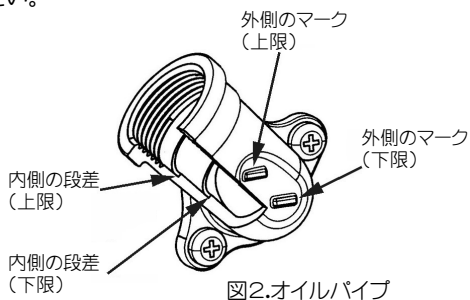
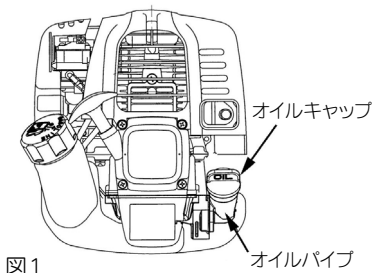
## 警告

- 緊急離脱の時は本機の支持に細心の注意を払ってください。
- 本機のコントロールを失うと、作業員自身または第三者の重大な負傷あるいは死を招くおそれがあります。

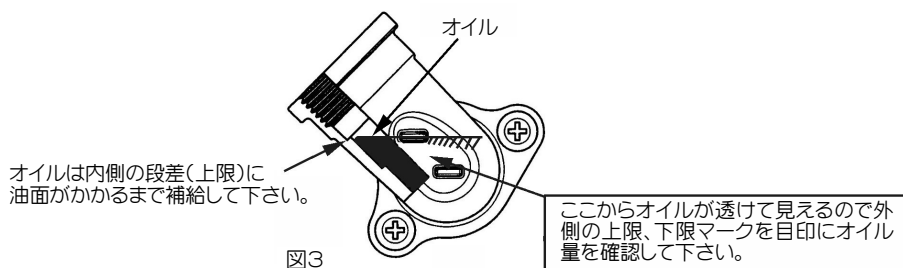
# 運転を始める前に

## 1. エンジンオイルの点検・補給

- エンジンが冷えている状態で、以下の手順に従って行ってください。
- エンジンを水平にし、オイルキャップ(図1)を外しオイルパイプの上限・下限位置の範囲内(図2)までオイルがあるか点検して下さい。



- 不足している場合(下限位置付近までオイル油面位置が低い場合)、上限位置までオイルを補給して下さい(図3)
- 外側のマークで囲まれる部分は中のオイルが透けて見えるので、オイルキャップを外さなくても外からオイル量を確認できます。但し、オイルパイプがひどく汚れて中のオイルが見えにくくなった場合は内側の段差にて確認して下さい。



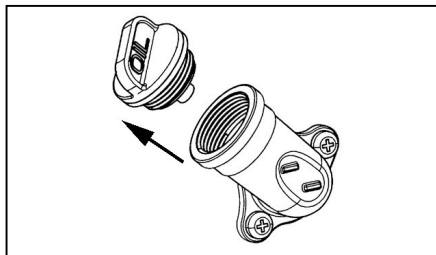
- 参考として、オイルの補給時間は約10h(燃料給油回数で、10回(10タンク))です。
- 汚れや変色が著しい場合は交換して下さい。(交換時期、方法は30ページ参照)。

《推奨オイル》 ……当社ミニ4ストローク用純正オイル、または、API分類SF級以上のSAE10W-30オイル(自動車用4サイクルエンジンオイル)を使用して下さい。

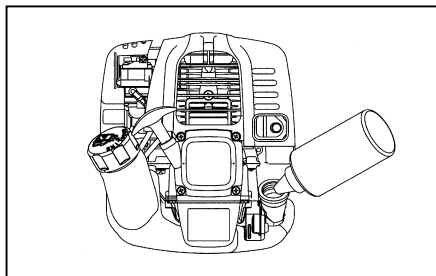
《オイル量》 ……約80cc

## オイル交換のポイント1《オイルキャップ》

- オイル給油口周りのゴミや汚れをとってからオイルキャップを外して下さい。
- 取り外したオイルキャップは、砂・ゴミ等がつかない場所において下さい。もしこれらがついたまま組付けると、オイル循環不良やエンジン各所の摩耗を引き起こし、故障の原因となる恐れがあります。



(1) エンジンを水平にし、オイルキャップを外して下さい。



(2) オイルを上限位置まで補給してください(前頁図3)。

注入の時は、潤滑油給油容器を使用してオイルを注入してください。

(3) オイルキャップを確実に閉めてください。締付が緩いとオイルが漏れることがあります。

## オイル交換のポイント2《オイルをこぼしてしまったら…》

- 燃料タンクとエンジン本体の間にオイルをこぼしてしまった場合、そのまま運転すると、冷却風取り入れ口よりオイルを吸い込み**汚れの原因**となります。必ずこぼしてしまったオイルを拭き取ってから運転してください。

## 2. 燃料の補給



警告

### 《燃料の取扱について》

燃料の取扱には、最善の注意が必要です。燃料には溶剤に類似した物質が含まれています。給油は換気のある部屋または野外で行ってください。燃料の蒸気を吸ったり、燃料が肌につかないようにしてください。頻繁に、または長期間接触しますと肌は乾燥し、その結果、皮膚病になる恐れがあります。またアレルギーが起こることもあります。

目に入った場合には、直ちに浄水で洗ってください。目の不快感が消えない場合には、専門医に相談してください。

## 《燃料の保管期間》

燃料専用容器に入れ、日陰で風通しの良い場所に保管した場合で4週間以内に使い切ることが目安です。専用容器でないとき、栓をしないうきなど、夏場では1日で劣化する場合があります。

### 本機並びに補給タンクの保管方法について

- 直射日光を避け、できるだけ涼しい所に保管してください。
- 自動車のトランクや車中に燃料を入れたまま放置しないでください。

## 《燃料について》

このエンジンは4ストロークエンジンです。自動車用ガソリン(レギュラーガソリン又はプレミアムガソリン)を燃料として運転してください。

### 燃料のポイント

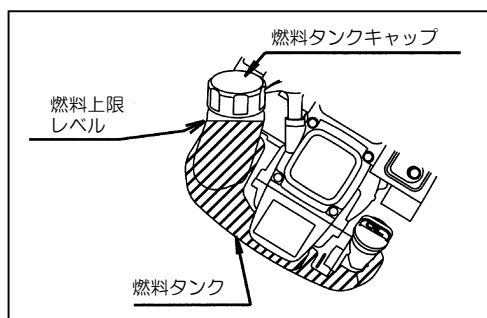
- ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。カーボン堆積が多くなったり、故障の原因となります。
- 古い燃料を使用すると、始動不良の原因となります。

## 《補給について》

### 警告 : 火気厳禁

- 燃料の補給は、必ずエンジンを停止し、冷えてから行うこと。
- 高温時は燃料タンクの内圧が上昇しております。タンクキャップを取り外す時は、一旦軽く緩め燃料タンク内の圧力を抜いて下さい。

《使用ガソリン》…… 自動車用ガソリン



- タンクキャップを少し緩め、燃料タンク内と外部との気圧差を無くします。
- タンクキャップを外し、給油口を上向きになるよう傾けて空気を抜きながら補給します(給油口いっぱいまで入れないでください)。
- 補給後、タンクキャップをしっかり締め付けてください。
- 燃料タンクキャップは消耗品であり、2～3年で交換が必要です。



# 運転のコツと停止のしかた

## 1. エンジンの始動方法

### 警 告

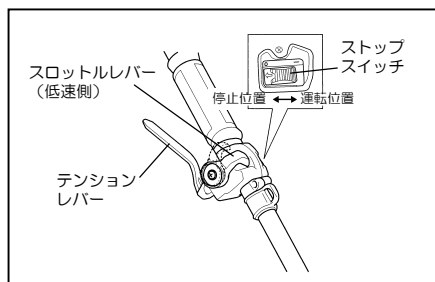
- 燃料を給油した場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3m以上離れた所で始動させてください。
  - 引火、火災の原因になります。
- エンジンの排ガスは有毒です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。
  - 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。
- エンジンを始動する前に、緊急離脱装置付肩掛バンドを装着し、異常がないかを確認してください。
- 始動後、音、におい、振動などの異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、点検を行ってください。
  - そのまま使用しますと、事故の原因になります。
- スロットルレバーを“低速（アイドリング）位置”に戻したとき、刈刃が停止することを確認してください。刈刃は惰性でしばらく回転した後停止します。
- ストップスイッチを押したとき、エンジンが停止することを確認してください。

### 注 意

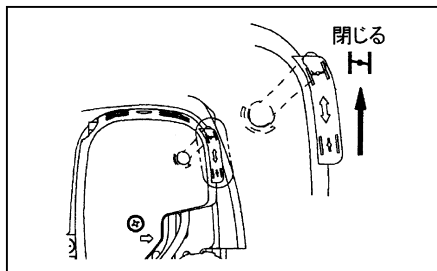
- エンジンを始動させる前、刈刃が地面や樹木その他の障害物に触れていないことを確認してください。
  - 刈刃が障害物に触れたまま始動させると事故の原因になります。

始動に際しては、次の要領で行ってください。

### A: 冷間時の始動



- 1) スロットルレバーを低速側（始動位置）にしてください。  
ストップスイッチを運転位置にします。

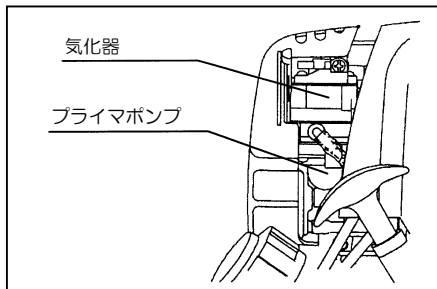


## 2) チョークレバー

チョークレバーを閉じます。

チョークの開度は

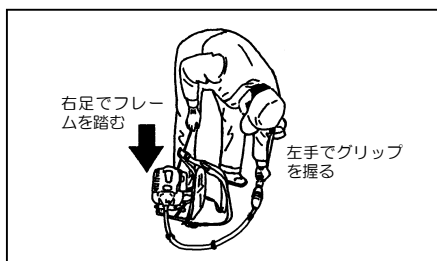
- 寒いときやエンジンが冷えているときは全開にします。
- 運転直後、再始動する場合は全開もしくは半開にしてください。



## 3) プライマポンプ

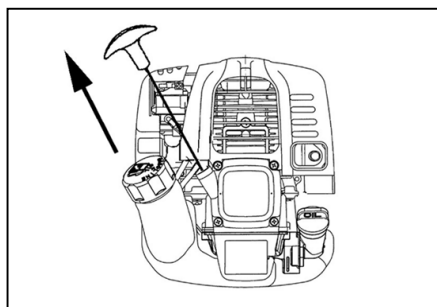
燃料がプライマポンプ内に入るまで、プライマポンプを繰り返し押ししてください(7~10回程度で燃料が上がってきます)。

押しすぎても必要以上のガソリンは燃料タンクに戻りますので、問題はありません。



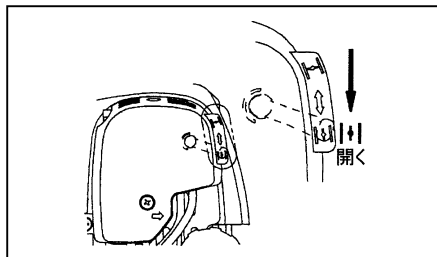
## 4) 始動時の姿勢

- 左図のように、本機を安定した平らかな地面に置き、左手でグリップを握って、右足でフレームをしっかりと踏んで背負い部を固定しながら右手で始動ノブをつかんでください。
- このとき刈刃は地面やその他の障害物に触れないよう十分注意してください。



## 5) リコイルスタータ

- 始動ノブをゆっくり引いていくと重くなる所(圧縮点)があります。そこから始動ノブをいったん戻し、勢いよく引っ張ります。
- ロープは一杯に引ききらないでください。引いた始動ノブは、その位置から手放さずに戻してください。



## 6) チョークレバー

エンジンがかかりましたら、チョークレバーを開きます。

- チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開き、最後には必ず全開にしてください。
- 寒いときまたはエンジンが冷えている時、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する場合があります。ご注意ください。

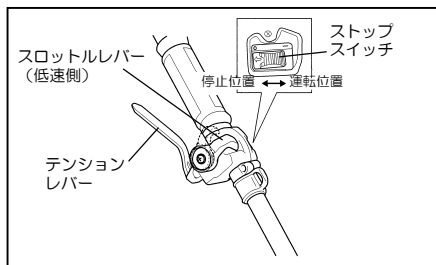
## 7) 暖機運転

2～3分間、暖機運転を行ってください。

### B: 暖機後の始動

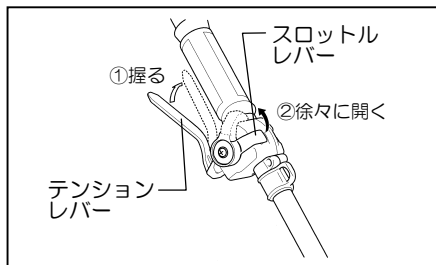
- 1) プライマポンプを繰り返し押します。
- 2) スロットルレバーは、低速(アイドリング)位置のままです。
- 3) リコイルスタータを勢い良く引きます。
- 4) エンジンがかかりにくい時はグリップを握ってスロットルを1/3程度開けて始動してください。この時、刃が回転することがあるので十分注意してください。

## 2. エンジンの停止方法



- 1) エンジンを停止するときは、テンションレバーを放し、スロットルレバーが低速側に戻っていることを確認してください。
- 2) ストップスイッチ  
ストップスイッチを停止位置にします。

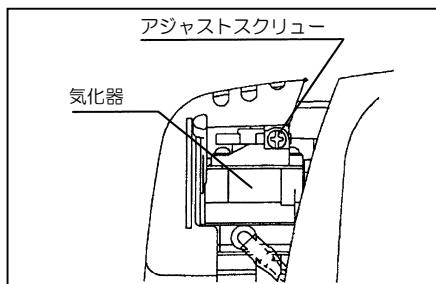
## 3. 操作方法



- テンションレバーを握ったまま、スロットルレバーを徐々に開いて作業に適した回転にしてください。テンションレバーを離すとスロットルレバーは低速側(始動位置)へ戻ります。

## 4. 低速調整の方法

低速回転(アイドリング)調整が必要な場合は、キャブレタのアジャストスクリューで行います。



### 低速回転の確認

- 低速回転は3000rpmにセットします。変更必要なときは、左図のアジャストスクリューをプラス(+ )ドライバーを用いて回し、調整することが可能です。
- アジャストスクリューを右に回すとエンジン回転が上昇し、左に回すと降下します。
- キャブレタは、出荷時に調整してありますが、再調整されるときは、販売店にご相談ください。

# 刈払作業

## 作業方法

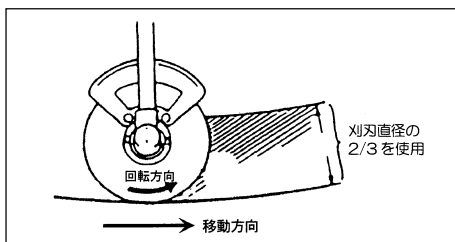
### 警 告

- 刈刃に雑草などがからみついたときは、必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が停止したことを確認してから取り除いてください。
  - 刈刃やエンジンが回ったままではけがの原因になります。
- 刈刃で打つ、たたく等の方法で刈払作業をしないでください。
  - 跳ね返りや刈刃が破損し事故の原因になります。
- 雨上がりなど足元が滑りやすい場所、および急傾斜地では使用しないでください。またハシゴに乗っての作業や、木に登っての作業など不安定な場所では使用しないでください。
  - 転倒してけがの原因になります。

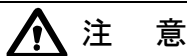
### 注 意

- 刈払いする場所にある小石、針金、空カン、空ビンなどの障害物は取り除いてから使用してください。
  - 使用中、刈刃が障害物に当たると、障害物の飛散、本機の跳ね返り、刈刃の破損などにより事故の原因になります。
- 実際に作業しないときは、必ず回転を落とすようにしてください。空ぶかしは寿命を縮めるものです。

- 刈刃が回転していないことを確認してからエンジン部を背負ってください。
- ハンドルとグリップを保持し、両足に平均に体重がかかるように適当に開いてください。
- 刈刃を地面から浮かし、スロットルレバーを調節しながら刈払作業に合った適当な回転にします。刈刃の回転が低すぎますと、雑草が刈刃にからみつくことがありますので注意してください。
- 刈払作業は、身体のまわりを右から左へ回すようにしながら前進し、雑草を刈ってください。このとき刈刃を左側へ少し傾けますと、刈った雑草が左側に寄り能率的に作業が行えます。
- 刈り残しをなくすために、刈刃の先端から2/3の範囲で刈ってください。
- 雑草が高く繁っているときは、まず雑草を高く刈って障害物がよく見えるようにしてからもう一度刈り取ってください。



# 点検と整備



## 注 意

- 点検・整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。またプラグキャップをはずしてください。
  - 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。
- 点検整備後は必ずすべての部品を組み付けたことを確認してから運転を行ってください。
- リコイルスタータの取りはずしは事故の原因になりますので、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

お買い上げいただきました製品をいつまでも調子良く長持ちさせ、安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備を行ってください。スロットルワイヤの調整は行わないでください。整備には付属の工具の他にワイヤブラシ、針金なども必要です。

	項 目	点検・整備内容	記載ページ
使 用 前	エンジン、ねじ、ナット	損傷と締まり具合の目視検査 全体的な状態と安全度の確認	34
	エアクリーナ	清掃	31
	冷却風通路	清掃	34
	刈刃	損傷と切れ味、締まり具合の確認	19
	エンジンオイル	点検、補給	22
	燃料タンク	清掃、点検	35
	アイドル回転数	点検、調整	27
給 油 後	スロットルレバー	機能確認	—
	ストップスイッチ	機能確認	—
30 時間 毎	ギヤケース	グリースの補給	33
毎 週	点火プラグ(スパークプラグ)	チェック、必要な場合は交換	32
50 時間 毎	エンジンオイル	交換(初回交換は20時間運転後に行ってください)	30
3 ヶ 月 毎	燃料フィルタ	清掃、交換	33
	燃料タンク	清掃	
200 時間 毎	燃料パイプ	交換	※1
	吸・排気弁の隙間	調整	※1
	エンジン	オーバーホール	※1
	オイルチューブ	点検	※1
2 年 間 毎	燃料タンクキャップ	交換	24
休業 休止 時	燃料タンク キャブレタ	空にする エンジンを運転し続け燃料を空にする	

※1 …200時間点検項目はお買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所へお申し付けください。

## 1. エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると、摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル量を守りましょう。



警告

：エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。火傷をする恐れがあります。また、停止直後は、オイルケース内にオイルが戻りきらない為、オイル入れ過ぎの原因になりますので注意して下さい。

注

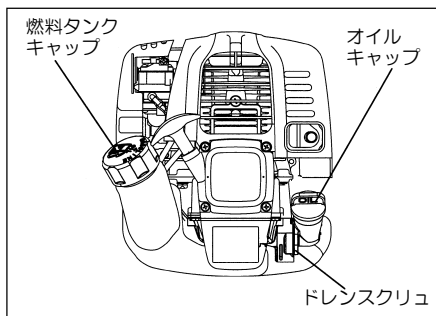
：オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因となります。

《交換時期》…… 初期20時間運転、その後50時間運転毎

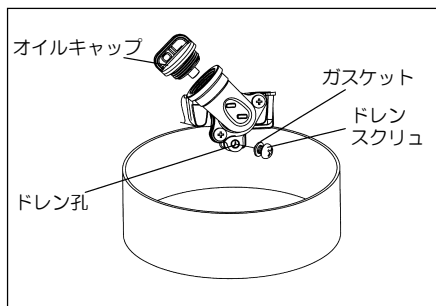
《推奨オイル》… 当社ミニ4ストローク用純正オイル、または、API分類SF級以上のSAE10W-30オイル(自動車用4サイクルエンジンオイル)を使用してください。

《オイル容量》… 約80cc

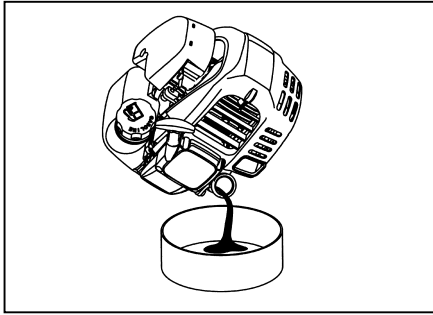
交換に際しては、次の要領で行ってください。



- 1) タンクキャップが締付られていることを確認します。
- 2) 大きめの容器(受け皿等)をドレン孔の下に置いて下さい。
- 3) ドレンスクリュを外し、オイルキャップを外すとオイルがドレン孔(排出孔)より排出されます。この時、ドレンスクリュに組付いているガスケットを紛失したり、外した部品にゴミを付着させない様に注意して下さい。

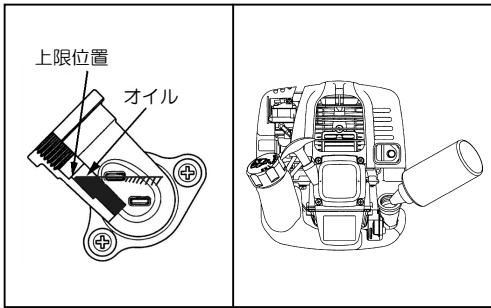


- 4) オイルが全て抜けたら、ガスケットとドレンスクリュを組付けます。ドレンスクリュは緩んでオイルが漏れない様、しっかり締付けて下さい。  
※付着したオイルは布等できれいに拭き取って下さい。



### ドレン孔を使用しない場合

- ・オイルキャップを外し、本機をオイル注入口側に傾け、オイルを抜いてください。オイルは容器などに受けてください。



- 5) エンジンを水平状態にして上限位置まで新しいオイルを徐々に注入して下さい。
- 6) 注入後、オイルキャップが緩まない様、確実に締付けて下さい。締付けが緩いとオイルが漏れることがあります。

### エンジンオイル交換のポイント

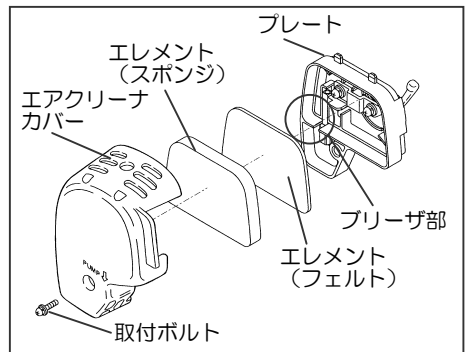
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は、法令で義務付けられています。法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください(6ヶ月に1回は新しいオイルと交換)。

## 2. エアクリーナの清掃

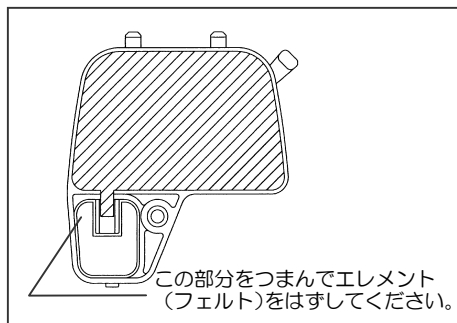
### ⚠ 警告 : 火気厳禁

《清掃・点検時期》… 毎日(10時間運転毎)

- エアクリーナカバーの取り付けボルトをはずします。
- カバー下側を引っ張る様にして、エアクリーナカバーをはずします。
- チョークレバーを全閉側にし、キャブレタに塵埃などが入るのを防ぎます。



- エレメント(スポンジ)にオイルが付着している場合は、固く絞って下さい。
- 汚れがひどい時は、
  - ① エレメント(スポンジ)部分を取りはずし、ぬるま湯または水で薄めた中性洗剤で洗い、完全に乾かします。
  - ② エレメント(フェルト)をガソリンで洗い、完全に乾かします。
- エレメントはよく乾かしてから組み付けてください。乾燥が不十分だと始動困難の原因となります。
- エアクリーナカバーとプレートのブリーザー部付近についたオイルをウエス等で拭き取ります。
- 掃除が終わり次第、エアクリーナカバーを取り付け、取り付けボルトで締め付けます。(取り付ける場合は、上側の爪をはめ込んでから下側の爪をはめ込んでください。)

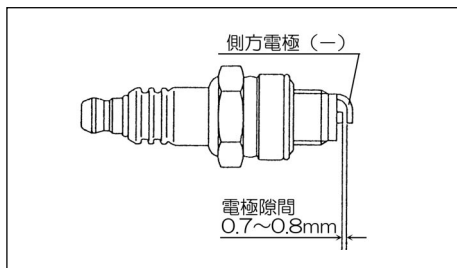


## ⚠ 注 意

- 作業環境によってエレメントに付着する塵埃が多い場合は、一日に数回掃除してください。
- エレメントにオイルが付着したまま運転を続けると、エアークリーナ内のオイルが外に垂れ、オイル汚れの原因になります。

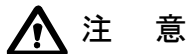
### 3. 点火プラグ (スパークプラグ) の点検

- ① スパークプラグの取はずしや取り付けには付属のボックスレンチを使ってください。
- ② スパークプラグの2電極間(右図参照)は、0.7~0.8mmです。この間隔が広すぎたり狭すぎたりする場合には、正しく調整します。
- ③ スパークプラグにカーボンが溜まっていたり、汚れている場合には完全に掃除するか交換します。
- ④ 交換に際して、NGK-CMR4Aをご使用ください。





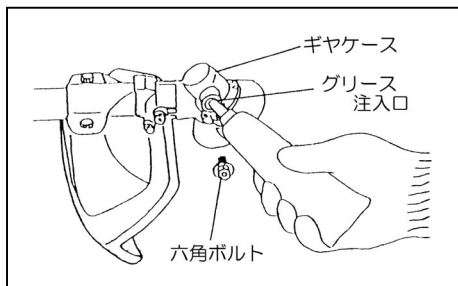
#### 4. ギヤケースへのグリースの補給



注 意

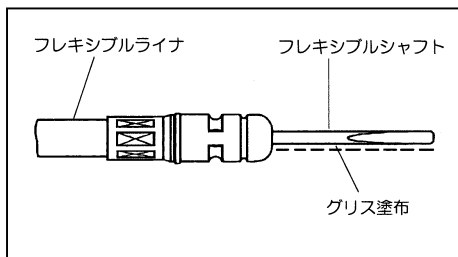
- エンジン停止直後はギヤケースの温度が高くなっています。十分に冷えてからグリースの補給を行ってください。火傷をする恐れがあります。
- 補給時間を守らないと本機の寿命を縮めます。

- ギヤケースの注入口よりグリース(シェルアルバニアNo.2相当品)を30時間毎に補給してください。



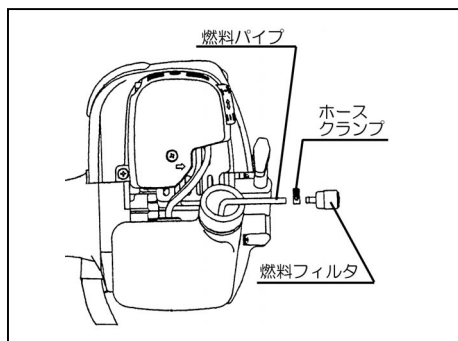
#### 5. フレキシブルシャフトの保守

- 使用5~15時間毎にフレキシブルライナよりフレキシブルシャフトを抜き出して、ヘアレックスEP-2またはシェル・アルバニアNo.2グリースを8~10g塗布してください。
- フレキシブルシャフトは消耗品です。フレキシブルシャフトが折損した場合は、フレキシブルライナも同時に交換してください。
- フレキシブルシャフトを取り付けるときには取り付け方向を時々逆にしますと長持ちします。



#### 6. 燃料フィルタの清掃

- 燃料フィルタが目詰まりすると始動困難になったり、エンジンの回転が上がらない場合があります。
- 燃料フィルタは次の要領で定期的にチェックしてください。
  - ① 燃料タンクキャップをはずし、燃料を抜き、燃料タンクを空にしてください。この時、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。



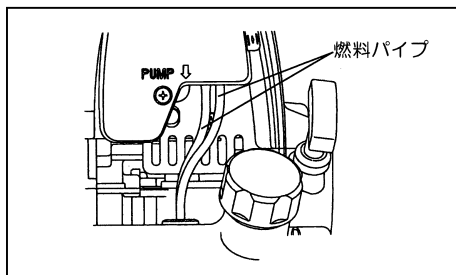
- ② 燃料フィルタを針金などを使い、給油口から引き出します。
- ③ 燃料フィルタの表面が汚れている場合はガソリンで汚れを落としてください。汚れたガソリンは各自治体指定の方法で処理してください。  
燃料フィルタの汚れが著しいときは交換してください。
- ④ 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。  
交換についてはお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

## 7. 各所ボルト、ナット、ビスの点検

- ゆるんだボルト、ナット等は増し締めします。
- 燃料やオイル漏れがないか点検します。
- 破損部品は新品と交換し、安全を心がけてご使用ください。

## 8. 燃料パイプの交換

- 使用頻度に関わらず異常が認められた場合、燃料パイプは交換してください。(交換目安:約1年)  
燃料漏れは引火する危険があります。  
なお、点検時漏れなどがある場合は即、交換してください。



## 9. 各部の清掃

- エンジンは、いつもきれいにしよう心がけてください。
- シリンダーのフィン等にゴミが詰まると、焼付きの原因にもなりますので、十分注意してください。

# 格納方法

## ⚠ 注意

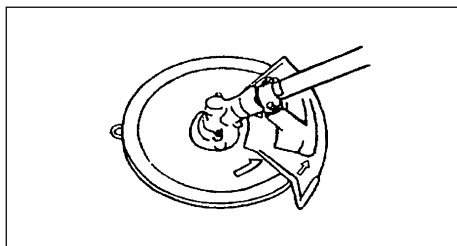
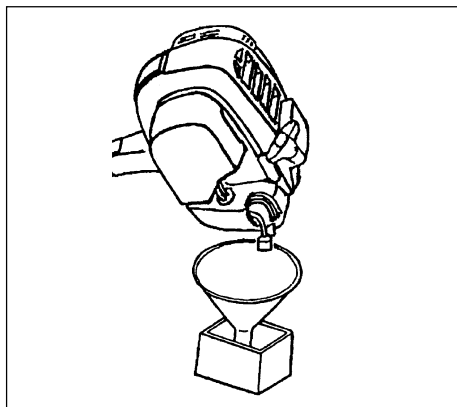
- 燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 停止直後では、やけどまたは引火、火災の原因になる恐れがあります。

## ⚠ 警告

- 長期間ご使用にならないときは、燃料タンクや気化器(キャブレタ)から燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。

- 次の要領で燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。

- ① 燃料タンクキャップをはずし、燃料を抜き、燃料タンクを空にしてください。  
この際、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。
- ② 燃料フィルタを針金などを使い、給油口から引き出します。
- ③ プライマポンプ内の燃料がなくなるまでプライマポンプを押し、燃料タンク内に出てきた燃料を抜いてください。
- ④ 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。
- ⑤ 最後にエンジンが停止するまで運転させてください。
- ⑥ スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしってください。
- ⑦ スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせ、スパークプラグを取り付けてください。
- ⑧ 刈刃には刃物カバーを取り付けて保管してください。
- ⑨ 抜き取った燃料は燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管してください。



# 故障かな?と思ったら

修理をお申し付けされる前に、まずご自身で点検を行い、その上でなお異常があるときは、取扱説明書の記載内容以外はむやみに分解しないでください。お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所に修理をお申し付けください。

不具合の状況	原因 (状態)	対応
エンジンが始動しない	プライマポンプの操作忘れ	7~10回押してください
	スタータロープの引き速度が遅い	勢いよく引き出してください
	燃料切れ	燃料を給油してください
	燃料フィルタの目詰まり	清掃してください
	燃料チューブが折れている	折れ目を直してください
	燃料が古い	燃料が古くなると通常より始動が困難になります。新しい燃料と変えてください。(約1ヵ月が目安です。)
	燃料の吸い込み過ぎ	チョークレバーを“開”にして、スロットルレバーを中速から高速にし、スタータハンドルをエンジンが始動するまで引いて下さい。始動しますと刃物が回転します。十分注意してください。 それでも始動しない時は、スパークプラグをはずし、電極を乾燥させ、元通り組付けて、同様の始動操作を行ってください。
	プラグキャップが外れている	確実に取り付けてください
	スパークプラグの汚れ	清掃してください
	スパークプラグ電極の隙間の異常	隙間を調整してください
	スパークプラグのその他の異常	交換してください
	キャブレタの異常	点検整備を申し付けください
	スターターロープが引けない	点検整備を申し付けください
駆動系の異常	点検整備を申し付けください	
エンジンがすぐ止まる エンジンの回転が上がらない	暖機不足	暖機運転してください
	エンジンが暖まっているのにチョークレバーを“閉”にしている	“開”にしてください
	燃料フィルタの目詰まり	清掃してください
	エアクリーナの汚れ、詰まり	清掃してください
	キャブレタの異常	点検整備を申し付けください
	駆動系の異常	点検整備を申し付けください

不具合の状況	原因 (状態)	対応
刈刃が回転しない ↓ 直ちにエンジンを停止する	刈刃締付ナットが緩んでいる	確実に取り付けてください (P19参照)
	刈刃、飛散防護カバーに小枝等が引っかかっている	異物を取り除いてください
	駆動系の異常	点検整備を申し付けください
本機が異常に振動する ↓ 直ちにエンジンを停止する	刈刃が割れ、曲がり、磨耗している	刈刃を交換してください
	刈刃締付ナットが緩んでいる	確実に取り付けてください
	刈刃と刃受金具の凸部がずれている	確実に取り付けてください
	駆動系の異常	点検整備を申し付けください
刈刃の回転が止まらない ↓ 直ちにエンジンを停止する	アイドルリングの回転が高い	調整してください
	スロットルワイヤが外れている	確実に取り付けてください
	駆動系の異常	点検整備を申し付けください
エンジンが止まらない ↓ エンジンをアイドルリングにして、チョークレバーを“閉”にして止める	ストップスイッチのコネクタがはずれている	確実に取り付けてください
	電気系の異常	点検整備を申し付けください

MEMO

---



株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

882726-4